

おくすり服用ガイド

デュファストン[®]錠5mgを
服用される患者さんに



監修：吉村泰典先生（生命の環境研究所代表理事・慶應義塾大学名誉教授）

デュファストン[®]錠5mgとは どのような薬ですか？

女性のからだは卵胞ホルモンと黄体ホルモン（プロゲステロン）という2つの女性ホルモンによってコントロールされています。

このうち黄体ホルモンは、排卵の後に分泌されるホルモンで、増殖した子宮内膜を分泌期に変化させて正常な月経周期をもたらし、妊娠を維持させる働きや、基礎体温を上昇させる働きがあります。

「デュファストン[®]錠5mg」は、黄体ホルモンとして働く合成黄体ホルモン薬です。

1965年の発売以来、デュファストン[®]は、下記に示した産婦人科領域の疾患に対する治療薬として、幅広く用いられています。

デュファストン[®]が処方されている疾患

- 切迫流早産
- 習慣流産
- 無月経
- 月経周期異常（希発月経、頻発月経）
- 月経困難症
- 機能性子宮出血
- 黄体機能不全による不妊症
- 子宮内膜症
- 不妊治療における生殖補助医療
(体外受精に用いる卵子を採取するための月経調節および成熟した卵子が採取前に排卵するのを予防)



上記疾患については、7～10ページの「デュファストン[®]・ミニガイド」でも解説していますので、あわせてご参照ください。

妊娠を希望していますが、 服用は可能ですか？

黄体ホルモン薬にはいくつかの種類があり、薬の種類によって、効果の強さや体内への影響などが異なります。

デュファストン[®]は、通常の投与量内では排卵することもあるため、妊娠の可能性を保ちつつ治療を続けることができます。

また、デュファストン[®]は基礎体温に影響を及ぼさないため、服用中でも基礎体温の観察を妨げることなく、排卵の有無や妊娠の診断ができます。

デュファストン[®]の主な特徴[※]

- 排卵と妊娠の可能性を保ちつつ治療が可能
- 基礎体温の上昇が認められず、服用中も基礎体温による排卵の観察が可能
- アンドロゲン作用が認められず、男性化作用(多毛、^{ざそう}痤瘡などの症状)がでない

※ 通常の投与量内



デュファストン[®]錠5mgの服用方法

通常、成人は1日1～3錠(5～15mg)を1～3回に分けて服用します。

子宮内膜症では1日1～4錠(5～20mg)を服用します。

不妊治療の生殖補助医療において、成熟した卵子が体の外に取り出す前に排卵しないようにする場合は、1日4錠(20mg)を1又は2回に分けて服用します。

服用する量や回数、服用期間は、疾患の種類や患者さんの症状によって異なりますので、必ず医師の指示を守って服用してください。

また、医師の指示なしに、自分の判断で服用量を変えたり、飲むのを止めたりしないでください。

もし飲み忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く飲んでください。ただし、次の服用時間が近い場合は、忘れた分は飲まずに1回分を飛ばしてください。2回分を1度に服用してはいけません。

誤って多く飲んだ場合は、医師または薬剤師に相談してください。



主な副作用

主な副作用に、悪心(吐き気やムカムカする感じ)、食欲不振、嘔吐があります。こうした胃腸系の症状は、飲み始めのころに現れやすいものの、服薬を続けることで軽快することがあります。症状が続くなど気になることがありましたら、医師または薬剤師に相談してください。

主な副作用

- 悪心
 - 食欲不振
 - 嘔吐
- 等の消化器症状



これら以外でも、気になる症状が現れた場合は、医師または薬剤師に相談してください。

服用前に 確認していただきたいこと

安全に服用いただくため、次のようなことがある方は、
このお薬を使う前に、必ず医師に相談してください。

このお薬は、肝臓で代謝されるため、肝機能に影響を及ぼすことがあります。
また、電解質の代謝に影響を及ぼすことがありますので、下記に該当する方は、
お薬を服用する前に、必ず医師に伝えてください。

- 以前に薬を飲んで発疹などが出たことがある方
- 肝臓の病気を患っている方(または患ったことがある方)
- 心臓や腎臓の病気を患っている方(または患ったことがある方)
- ポルフィリン症の方

その他、気になることがありましたら、服用する前に、医師または薬剤師に
ご相談ください。



デュファストン[®]・ミニガイド

デュファストン[®]の治療対象となる疾患についてまとめました。診療時、医師の説明を理解いただくための基本資料としてお役立てください。



せっぱくりゆうざん 切迫流産

妊娠22週未満で、流産の一手手前である状態をいいます。一般の流産では基本的に妊娠継続は難しいのですが、「切迫流産」は妊娠継続の可能性ががあります。なお、切迫流産という言葉は原則として、超音波検査で子宮内に胎囊たいのう（赤ちゃんを包んでいる小さな袋）が検出されている場合にのみ用いられます。

せっぱくそうざん 切迫早産

妊娠22週以降37週未満に子宮収縮が頻回におこり、子宮の出口（子宮口）が開き、破水してしまうなど、早産の危険性が高いと考えられる状態をいいます。子宮収縮の程度が軽く、子宮口があまり開いていない場合は外来通院による治療も可能ですが、子宮収縮が強く子宮口の開大が進んでいる場合は、入院して子宮収縮抑制剤による点滴治療が必要となります。

しゅうかんりゅうざん 習慣流産

妊娠は成立するものの、続けて3回以上の自然流産を繰り返す場合をいいます。自然流産の頻度は、全妊娠の約7～15%とそれ自体は珍しいことではありませんが、3回以上自然流産を繰り返した場合は、特別な原因がないか調べることがすすめられます。習慣流産の原因としては、子宮の形態の異常、ホルモンの異常、血液凝固異常、感染症、自己免疫性疾患、染色体異常、抗リン脂質抗体症候群などがあります。

むげっけい 無月経

周期的な月経が来るべき年齢層の女性が、何らかの理由で月経が来ない状態をいいます。無月経は、その原因によっていくつかの種類に分けられます。「病的無月経」は、妊娠や授乳期、閉経など生理的に起こる無月経を除いた月経の異常な停止をいいます。主な原因としては、間脳下垂体障害、卵巣機能不全、高度の子宮發育不全、処女膜閉鎖、腔閉鎖などが挙げられます。一方、満18歳を迎えても初経が起こらないものを「原発無月経」といいます。こちらは染色体異常に伴うことが多いため、染色体異常の有無を調べる精密検査が必要です。

げっけいしゅうきいじょう 月経周期異常〔希発月経・頻発月経〕

正常な月経周期は、25日～38日で、かつ1周期ごとの変動が6日以内、と定義されています。月経周期が周期から外れるのが「月経周期異常」で、月経周期が39日～3ヵ月以内と長いものを「希発月経」、月経周期が24日以内と短いものを「頻発月経」といいます。原因は、排卵の有無によっても異なりますが、ホルモンバランスの乱れのほかに、子宮や卵巣、甲状腺などの病気が関係していることもあります。

おうたいきのうふぜん

黄体機能不全による不妊症

黄体の機能に異常があり、黄体ホルモン(プロゲステロン)が十分に分泌されず、子宮内膜の完全な分泌期変化が起こらない病態をいいます。黄体ホルモンが少ないと子宮内膜が十分に厚くならないので、受精卵が着床しにくく不妊の原因となります。

通常、基礎体温や黄体期における性ステロイドホルモンの測定、および子宮内膜の組織診によって診断されます。

げっけいこんなんししょう

月経困難症

月経期間中、月経に伴って起こる病的な症状をいいます。下腹痛、腰痛、腹部膨満感、嘔気(ムカムカする)、頭痛、疲労、脱力感、食欲不振、いろいろ、下痢および憂うつなどの症状が多くみられます。

月経困難症は、子宮内膜症や子宮筋腫などの病因に伴う「器質性」のものと、器質的な病因を伴わない「機能性」のものに分けられます。機能性の場合は初経後2~3年から始まり、月経の初日や2日目頃の出血が多いときに強く、周期的な痛みを伴うことが特徴です。原因としては、頸管が狭いことや、プロスタグランジンなどの内因性生理活性物質によって子宮が強く収縮することが関係していると考えられます。なお、無排卵性の月経の場合は通常、こうした症状はみられません。

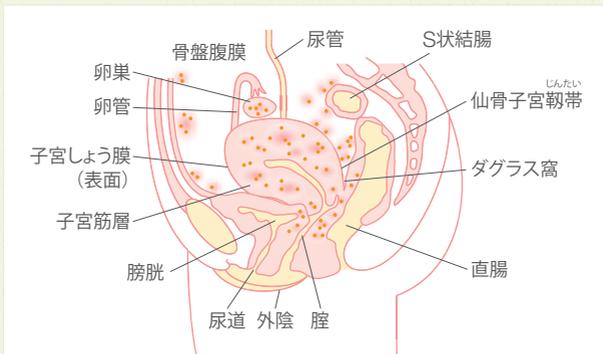


しきゅうないまくしょう 子宮内膜症

子宮内膜症とは、本来、子宮の内側にしか存在しないはずの子宮内膜と同じ組織が、子宮の内側以外の場所に増殖して起こる疾患です。病巣が最も多く起こるのは卵巣ですが、腔、外陰部、卵管、子宮諸^{じんたい}靱帯、膀胱、ダグラス窩、S状結腸、直腸などにも発生します。まれに腎臓、尿管、胸膜、四肢などにもみられることもあります。卵巣はしばしばチョコレート嚢胞^{*}を形成し、子宮やその周囲の付属器、腸管などとの癒着^{ゆちゃく}をもたらします。子宮内膜症は、月経困難症や不妊の原因としても重要視されています。

※チョコレート嚢胞：血液が溜まってチョコレート色の液になり、嚢胞が形成されること。

子宮内膜症が発生しやすい下腹部（点が病巣）



子宮内膜症協会ホームページより引用改変

きのうせいしきゅうしゅっけつ 機能性子宮出血

妊娠や外傷、腫瘍、炎症などの器質的変化がないにもかかわらず、子宮内膜から出血する状態をいいます。多くはホルモンの異常などが原因ですが、まれに血液疾患によるものもあります。

あなたの処方メモ

このお薬は、治療目的によって服用方法が異なります。

周期的投与法など変則的になることも多いので、指示どおり正しく服用してください。

服用量 朝：_____錠

昼：_____錠

夜：_____錠

就寝前：_____錠

服用期間(服用周期)

日間

月 日 ~ 月 日

医師から指示されたこと



おくすり服用ガイド

デュファストン[®]錠 5mgを
服用される患者さんに